

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|------------------------------------|---------------------|---|---------------------|--|--|
| 名 前 | 高倉 実 | | 所 属 | 医学部 保健学科 | |
| 職 名 | 教授 | | | | |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 共通教育科目(運動スポーツ科学演習)を担当し、全学的教育に貢献する。学部専門科目(疫学、学校保健学、健康教育学、生命倫理学[1])を担当し、専門性を高める講義を行う。大学院博士前期課程科目(学校保健学特論・特演、保健学研究方法[2]、保健学特論[1])、大学院博士後期課程科目(健康増進開発学特論、保健学特別講義[3])を担当し、種々の疫学的研究について講義する。担当科目において Learning Management Systemを積極的に活用する。卒業論文、修士論文、博士論文の指導を行う。2年生の指導教員として学生支援を行う。 | 0.30 | 共通教育科目(健康スポーツ科学演習)、学部教育、大学院教育について、各々の授業評価は良好であり、教育目標を達成した。 学部科目の「疫学」の講義にLMSのテスト機能を使用して、演習問題を掲載し学生に予習復習させるようにした。その結果、本科目の期末試験の平均点は継続的に高得点を維持している。また、「健康教育学」および「学校保健学」においてもLMSを活用して指導した。さらに、大学院共通科目「保健学研究方法」「保健学特論」の英語教材をLMSに掲載して復習させるようにした。 今年度は4名の卒業論文を指導した。博士後期課程1名、博士前期課程1名の大学院生を指導中である。修士論文1編の主査を行った。2年生の指導教員として学生支援を行った。 | |
| 研究 | 0.30 | 研究論文の採択を目指す。同様に関連学会で研究発表を行う。研究代表者・分担者として外部資金を獲得し、健康科学に関する研究を積極的に実施する。関連学会の編集委員として学術誌を編集するとともに、関連学会学術誌の査読を行う。 | 0.30 | 国内英文誌(査読有)に2編(筆頭著者1編)の学術論文を発表した。 国内和文誌(査読有)に1編の学術論文を発表した。 国際学会(European Public Health Conference)で3題(筆頭演者1題)の研究発表を行った。 国内学会で13題の研究発表を行った。 共著者として平成29年度日本学校保健学会奨励賞を受賞した。 研究代表者として科研費(B)と挑戦的萌芽研究を獲得した。研究分担者として1件の科研費(B)を獲得した。 日本健康教育学会誌編集委員として2編の編集担当、日本体育学会誌編集委員として学会誌編集に携わり、国際誌4編、国内誌の5編の査読を担当した。 | |
| 社会 貢献 | 0.25 | 関連学会の代議員・評議員として学会活動を積極的に行う。沖縄県をはじめとする行政の各種委員会の委員等を務め、社会貢献活動に積極的に参加する。 | 0.25 | 関連学会の代議員(日本学校保健学会、日本健康教育学会、日本健康学会) 沖縄県公衆衛生学会幹事 日本公衆衛生学会認定専門家 沖縄感染症研究拠点形成促進事業推進委員会委員長 沖縄県保健医療部「健康おきなわ21(第2次)」分野別委員会委員長 沖縄県保健医療部「健康おきなわ21(第2次)」中間評価総括委員会委員 沖縄県食育推進協議会委員 沖縄県禁煙協議会委員 沖縄振興特別推進交付金後継事業のコアメンバーとして、市民セミナーの講師を担当するとともに、新聞に啓発記事を掲載した。 | |
| 管理 運営 | 0.15 | 人を対象とした研究(医学系除く)の倫理審査規則・委員会発足準備WGをはじめとする全学的委員会、学部内各種委員会に積極的に参加する。学生支援委員長を務める。 | 0.15 | 学内各種委員会に積極的に参加した。人を対象とした研究(医学系除く)の倫理審査規則・委員会発足準備WGに委員として参画した。 保健学科学学生支援委員長を務めた。 | |
| 計 | 1.00 | | 1.00 | | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|
| 名 前 | 古謝 安子 | | 所 属 | 医学部 保健学科 | |
| 職 名 | | | 教授 | | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 学部教育では、担当科目や分担科目をとおして看護専門職者としての実践的知識・技術や態度を修得できるようグループワークと事例学習を多く取り入れ、毎回の授業評価を求め、学生の意見を授業に反映させる。卒業研究3年次3名、4年次3名の研究力を強化するために文献レビューを徹底し、研究遂行における逐語録の分析を強化する。博士前期課程1年次2名の研究計画・倫理審査指導および前期2年次3名の研究遂行・論文作成指導と後期課程3年次の英語論文作成・投稿を補佐する。大学院生には次期教育者として学部生を指導できるよう体制づくりを行う。 | | 0.40 | 学部では在宅・慢性期両分野及び教務委員長担当科目を運営した。主体的学習を促すため学生と要援護高齢者との面談を企画しアセスメント演習と看護計画作成及び模擬調整会議を行った。在宅看護実習では教育改善経費を受け、4年次に3年次の実習サポ-ト支援を企画し評価を得た。4年次卒研3名の発表内容の評価は高く、3年次は倫理審査申請の準備を行っている。博士前期2年次3名は本審査に向けた論文を書き上げた。院生には本学の研究支援員制度やTA雇用を活用して、研究者及び教育者としての実践指導を行っている。博士後期1名は学術誌に英語論文を投稿中であり、目標達成した。 |
| 研究 | 0.30 | 科研費「小離島で島内在宅介護看取りを可能にする要因の研究」は、前年度実施した渡嘉敷島調査の分析と成果発表に取り組み、南北大東島での調査を計画・実施する。本学COC事業「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成事業」は最終年度であり、研究指導と八重山地区でのシンポジウム開催を企画し、看護職の研究力の変化を調査する。 | | 0.20 | 科研費助成を受け2年目であり、計画通り南大東村との調整を経て、行政や保健医療福祉関係者及び高齢者への調査を実施できた。現在調査データを解析している。北大東村との調整は今後実施予定である。八重山地区看護職の研究能力育成事業では研究メンバー間で役割分担して遂行できた。本研究成果は現在論文投稿中であり、目標達成した。 |
| 社会貢献 | 0.20 | 附属病院看護部と八重山地区看護師を対象に、集団・個別研究支援を実施し、研究成果の院内外、県内外での研究発表促進を図る。また、琉球大学の公開講座として「看護職の研究力アップ講座」を開催し、民間医療機関の看護職者の研究能力向上を支援する。県・市町・職能団体の地域包括ケアや訪問看護に関する委員会の委員長として地域貢献を担う。 | | 0.20 | 附属病院看護部の研究支援は担当病棟からの要請に対応しており、全国学会で発表した。看護職研究能力アップ公開講座はメンバーで役割分担して遂行でき、5回運営で参加者の成果発表会を実施できた。看護協会の管理者研修を担当し、述べ100名余の単元評価を実施した。また県や1市1町1村及び看護協会の委員会委員長を務め、目標達成した。 |
| 管理運営 | 0.20 | 学科教務委員長として委員会の審議を進め、医学科との共修科目「シミュレーション演習」や共通教育科目「ヒトの健康科学」の運営を行い、クォーター制実施における運営管理上の問題に対応する。医学教育企画室室員や附属病院在宅医療推進センター員、在宅療養支援に係る看護職の実践力養成事業運営委員会委員として積極的に参画する。 | | 0.20 | 本年度は学科全学年一斉にクォーター制による授業を開始した。教務委員長としてクォーター制開始前調整を事務方と進め、1・2クォーター後中間評価を教員及び学生に実施して次年度運営への改善を図っている。医学科との共修科目や共通教育科目の運営調整を行い、問題への対応及び次年度運営の改善を図った。医学教育企画室室員や附属病院の2委員会委員として参画しており、目標達成した。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 大 湾 知 子 | | 所 属 | | 医学部 保健学科 | | 職 名 | | 准教授 | |
|---------------------------------------|---------------------|--|--|-----|--|--|--|-----|--|-----|--|
| 領域 | 業務 ウエイト 比(予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | | 業務 ウエイト 比(実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | <p>①実践・研究にむけた看護教育内容を充実する。 ②附属病院の排尿ケアチームとして、病棟看護師へ排尿ケアへの指導を行う。泌尿器科外来で患者相談や検査、泌尿器関連の看護ケアを行い看護実践教育に活かす。 ③学生と教員そして看護実習指導者と連携して積極的に意見を取り入れ授業と実習指導を行う。 ④作成した自己導尿マニュアルを看護学生や臨床看護師へ紹介し自己導尿の普及に努める。 【急性期看護実習】 術後の医療関連感染性廃棄物取り扱いの見学を取り入れる。実践に役立つようフィジカルアセスメントやシミュレーション学内演習内容を充実させ執筆や研究論文を実習に反映する。シミュレーション基盤型教育セミナー(FunSim)、FumSimのアドバンスコースの研修を活かし独自でシミュレーション教育を発展させる。 【感染看護】 実際の病院見学で感染対策の実際を考察する。5月12日「看護の日」に海軍病院看護師と沖縄県看護師・本学学生に向けて「感染対策」について英語パネルディスカッションを行い感染対策について深く理解してもらう。 【研究】 学生の研究指導を行い、成人看護学分野における感染看護分野と尿失禁看護分野を学ぶ学生の人材育成を行う。 1) 介護支援ボランティア活動を支援するための検討 2) 自己決定を支援する患者会活動の在り方の考察</p> | | | | 0.30 | <p>病院と連携して実践教育のできる看護師の資質向上に努めた。病院ラウンドを行い、病棟看護師へ排尿ケアへの指導を行った。作成した自己導尿マニュアルを看護学生や臨床看護師へ紹介し自己導尿の普及に努めた。泌尿器科外来で患者相談や検査、看護ケアを行い看護実践教育に活かした。その看護実践を活かし学生と教員そして看護実習指導者と連携して積極的に意見を取り入れ実習指導を行った。急性期看護実習では術後の医療関連感染性廃棄物取り扱い、シミュレーション、FumSimのアドバンスコースの研修を活かし発展させた。</p> | | | | |
| 研究 | 0.30 | <p>①琉球大学附属病院職員看護師や地域連携ネットワークの方々と共に研究する。 ②第17回日本感染看護学会評議員として学会参加する。 ③平成30年2月の第33回日本環境感染学会評議員として学会での役割を努める。 ④関連企業や施設との共同研究を継続し、実社会に応用できる看護の研究開発に努める。 ⑤専門分野に関連した研究助成「ジェンダー研究」を受け、それに基づき研究活動を展開する。継続研究として本学共通科目平成29年度「キャリアデザインとジェンダー」を講義を担当する。 ⑥日本老年泌尿器科学会に参加して排尿機能検査士講習会を受け役割の継続を行う。 また排尿機能検査士講習会に参加して認定継続を受ける。</p> | | | | 0.30 | <p>看護師や地域連携ネットワークの方々と共に研究して投稿した。各種学会評議員として学会参加した。関連企業や施設との共同研究を継続し、実社会に応用できる看護の研究開発に努めた。 専門分野に関連した研究助成「ジェンダー研究」を受け、「キャリアデザインとジェンダー」を講義した。排尿機能検査士として活動した。</p> | | | | |
| 社会 貢献 | 0.30 | <p>①学術委員として学外の審議会参画に努める。 ②勉強会代表世話人として県内の感染管理認定看護師や感染対策看護師そして安全管理対策看護師とともに連携して勉強会・ネットワークセミナーを開催し沖縄県感染看護の質向上に努める。 ③勉強会代表世話人として県内の尿失禁看護の専門職者と研究会や勉強会、公開講座、コンチネンス初級セミナーを開催する。 ④関連施設との共同研究の成果を応用し、社会貢献を行う。 ⑤非常勤講師を務め、地域社会連携を深める。 ⑥県内で感染看護や尿失禁看護に関する市民公開講座を実施して「自己導尿マニュアル」を全国に紹介して啓発活動を行う。 ⑦琉球大学附属病院での看護師としての看護実践、保健学科での看護教員としての教育、それを基盤として統合した研究、ユニフィケーションモデルを構築して社会に貢献し研究論文にまとめる。 ⑧琉大病院の患者や職員そしてボランティアを支援する。</p> | | | | 0.30 | <p>研究財団学術委員として学外の審議会参画に努めた。勉強会代表世話人として県内の感染管理認定看護師や感染対策看護師そして安全管理対策看護師とともにICNネットワークセミナーを開催し沖縄県感染看護の質向上に努めた。勉強会代表世話人として県内の尿失禁看護の専門職者と研究会や勉強会、公開講座、コンチネンス初級セミナーを開催した。関連施設との共同研究の成果を応用し、社会貢献を行い医療施設の連携を深めた。県内で感染看護や尿失禁看護に関する市民公開講座を実施して「自己導尿マニュアル」を全国に紹介して啓発活動を行った。 看護師としての看護実践、保健学科での看護教員としての教育、それを基盤として統合した研究、ユニフィケーションモデルを構築して社会に貢献し研究論文にまとめた。「琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクト」を継続して行い、琉大病院の患者や職員そしてボランティアを支援した。</p> | | | | |
| 管理 運営 | 0.05 | <p>①委員会委員として廃棄物処理方法手順を作成し周知徹底を行う。また、エコアクションに関する取り組みを行う。 ②委員会委員として役割を遂行し附属病院における感染対策を行う。 ③感染対策院内研修会を開催し職員の質向上に努める。 ④事務部門とボランティアと連携して諸活動に積極的に参加する。 ⑤委員会委員として防災と災害復興に関連した活動を行う。</p> | | | | 0.05 | <p>廃棄物処理方法手順を作成し周知徹底、エコアクションに関する取り組みを行った。附属病院における感染対策を行う。感染対策院内研修会を医療法に遵守して職員が年2回出席できるよう開催し職員の質向上に努めた。事務部門とボランティアと連携して諸活動に積極的に参加した。防災と災害復興に関連した活動を行った。</p> | | | | |
| 診療 | 0.05 | <p>①感染対策担当看護師として病院感染防止対策を実践している。ICD:Infection Control Doctor講習会を受けて認定資格を更新する。 ②病院外来で、排尿機能検査士・尿失禁相談看護師として実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築する。医師・看護師・理学療法士などチーム連携を図る。 ③診療活動支援を行い看護教員としての看護実践能力を養うと同時に外来の看護師が排尿機能検査士認定資格取得を支援する。</p> | | | | 0.05 | <p>ICD:Infection Control Doctor講習会を受けて認定資格を更新した。 排尿機能検査士・尿失禁相談看護師として排尿機能障害患者の面談や指導を行い実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築した。医師・看護師・理学療法士などチーム連携を図った。琉大病院介護ボランティアの活動支援プロジェクトを継続して実施した。診療活動支援を行い看護教員としての看護実践能力を養うと同時に外来の看護師が排尿機能検査士認定資格を取得するのを支援した。</p> | | | | |
| 計 | 1.00 | | | | | 1.00 | | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|------------------------------------|-------------|--|----|-------------|--|
| 名前 | 照屋 典子 | | 所属 | 医学部 保健学科 | |
| 職名 | | | 職名 | 助教 | |
| 領域 | 業務ウエイト比(予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務ウエイト比(実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・学生支援 | 0.35 | <p>①学部生の講義では、わかりやすいスライド(資料)、視聴覚教材の提供、双方向的なコミュニケーション、グループディスカッション、発問、ロールプレイ演習等を取り入れ、学生の理解、考える力の促進に努める。</p> <p>②急性期看護実習、成人総合実習、看護統合実習では、OJT、看護師との連携を通して、学生が患者へ安全安楽、回復促進に向けた看護を提供できるよう支援する。</p> <p>③卒業研究指導においては、学生の考えを積極的に聴取し、主体的に取り組めるよう支援する。</p> | | 0.37 | <p>①科目を担当した「急性期看護実践学」、授業を担当した「成人看護学」、「がん看護論」、「生命倫理学」では、視聴覚教材、グループ課題のプレゼンテーション、グループ討議、発問、ロールプレイを活用して双方向の授業を心がけ、急性期看護実践学では、自習ノートの提出、小テストを課し、学生の自学自習を促進できるよう工夫に努めた。</p> <p>②今年度より、「急性期看護実習」の科目担当者として、附属病院実習病棟の看護師長、副師長との連携を密に行い、学生が積極的、かつ安全・安楽な患者ケアを提供できるよう支援、環境調整に努めた。看護統合実習では、学生5名を担当し、琉大附属病院、浦添総合病院、中頭病院での実習を遂行した。</p> <p>③卒業研究では、登録学生2名の研究指導を行った。また、11月18日(土)開催の沖縄県公衆衛生学会では、学生2名とも口演発表を行うことができた。</p> <p>④ケアリング・アイランドコンソーシアム事業の一環として、沖縄県立看護大学、名城大学との共催による「海外研修報告会&ミニレクチャー」を開催した。各大学より38名の参加があり、参加学生よりとても好評であった。</p> |
| 研究 | 0.35 | <p>①昨年度に引き続き、科研費基盤研究B「発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成」、基盤研究C「中高生への子宮頸がん予防啓発に向けた教育支援」の分担研究者として、積極的に取り組む。</p> <p>②今年度採択された、基盤研究Cの研究課題「親子で学ぶがん予防教育プログラムの実践と評価」の研究代表者として、積極的に取り組む。</p> <p>③附属病院看護部(8西病棟、7西病棟)との看護研究ユニフィケーションに積極的に取り組む。</p> <p>④昨年度、実施した研究の成果について、看護系の学会等で発表する。</p> | | 0.36 | <p>①左記研究課題(科研基盤Bおよび基盤C)の研究分担者として、調査、分析を担当し、積極的に取り組んだ。とくに基盤Cでは、中高生へのがん予防啓発に関するニーズ調査結果について、10月20-22日タイで開催されたTNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017にてポスター発表を行った。</p> <p>②左記研究課題(科研基盤C)の研究代表者として、福岡県で行われているがん教育モデル事業や、鹿児島県で患者団体がやっている「いのちの授業」の取組みを視察し、情報収集を行った。</p> <p>③附属病院看護部(8西病棟、7西病棟)における看護研究の倫理審査に向けての助言を求められ、助言、資料提供を行った。</p> <p>④6月より取り組んでいた「喉頭摘出術を受けた患者の不安・抑うつと個人要因、日常生活における困難感との関連」に関する研究について、Palliative care research(日本緩和医療学会誌)に投稿し、受理された。</p> <p>⑤大学院生(CNSコース学生)の研究指導にも参加し、調査票作成、倫理審査に向けて支援した。</p> <p>⑥学内准教授の称号付与について継続申請を行い、医学部長より承認を受けた。</p> <p>⑦昨年度まで参加していた大学間連携事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を育成する教育共同体の構築」で実施した調査研究および学生支援の成果について、第27回日本看護学教育学会学術集会(8月17-18日沖縄開催)にてポスター発表を行った。</p> |
| 社会貢献 | 0.25 | <p>①琉球大学公開講座「患者・家族を癒す緩和ケアの実践」の8月開催に向けて、共催する浦添総合病院と連携しながら企画運営を進め、当日は講話も担当する。</p> <p>②沖縄県看護協会学会委員会の学会委員長として、第32回沖縄県看護研究学会学術集会(来年2月開催)における学会企画、運営の統括を行う。</p> <p>③日本がん看護学会の代議員、学会誌専任査読委員の役割を果たす。</p> <p>④沖縄県の都市計画審議会 1号委員の役割を果たす。</p> | | 0.25 | <p>①8月19日(土)に、左記の公開講座を浦添総合病院との共催で行い、一般市民23名の参加があり、緩和ケアに関する情報提供を行った。</p> <p>②沖縄県看護協会学会委員長として、H30.2月17日(土)に開催する第32回沖縄県看護研究学会学術集会の運営統括および看護研究支援講座の講師を務める。</p> <p>また、第27回日本看護学教育学会学術集会(8月17-18日沖縄)の運営委員として、学術集会の運営に携わった。</p> <p>③日本がん看護学会代議員として、H30.2月2日会議出席、第32回学術集会の演題査読を務めた。</p> <p>④沖縄県都市計画審議会の1号委員として、8月、12月、2月の会議に出席した。</p> |
| 管理運営 | 0.05 | <p>①入試業務は、ミスなく、円滑な運営を行う。</p> | | 0.02 | <p>①入試業務は二次試験(前期日程)監督を予定しているので滞りなく業務を遂行する。</p> |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 上原 佳里奈 | 所 属 | 医学部 保健学科 | 職 名 | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 分野長指導の下で講義・実習を行う。国家試験模試の運営、調整等を行う。 | | 0.50 | 解剖学・組織学及び病理学の顕微鏡実習と講義を担当した。染色実習では、試薬の準備から実習指導まで実施できた。共通教育では、情報科学演習を担当した。去年に引き続き、チェンマイ大学研修の引率を任せていただいた。タイ渡航時やチェンマイ滞在時に、学生のサポートができた。また、臨床検査技師国試対策の模試を担当し、4年生や過卒生をサポートすることができた。 | |
| 研究 | 0.55 | 学会発表を2回行う。科研費、外部の研究費助成に応募する。学術論文の執筆、投稿。 | | 0.45 | 第106回日本病理学会(東京)と第40回日本分子生物学会(神戸)で研究発表を行った。外部資金獲得のため、科研費申請に挑戦した。英語論文2報をパブリッシュした。 | |
| 社会貢献 | 0.05 | 沖縄県臨床検査技師会の学会や研修会の運営を手伝う | | 0.02 | 検査技師会の研修会の世話役を担当し、運営の手伝いを行った。 | |
| 管理運営 | 0.05 | オープンキャンパスの運営、入試試験監督 | | 0.01 | オープンキャンパスの運営に参加した。2月に行われる前期試験の採点委員を担当する予定である。 | |
| 進路指導 | 0.05 | 学生とコミュニケーションをとり、適切なアドバイス・指導ができるように | | 0.02 | 卒研究生や担当教科の学生と積極的にコミュニケーションをとり、適切なアドバイスができた。進路相談などを通して、学生をサポートできたと思う。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 與古田 孝夫 | 所 属 | | 医学部 保健学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材、研究業績を活用した授業展開 ・TA(Teaching Assistant)による授業補助及び授業法の教授、研究指導法について助言 | | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に応じて関連する視聴覚教材を活用するなど、学生の興味関心をひく授業展開を心がけた。授業内容に関連するものについては、研究で得られた知見を提示した。 ・開講授業の評価は、前期の「精神看護学」が85.0点、後期の「精神看護実践学」が86点であり、教育領域の目標は達成できたと考える。 | | |
| 研究 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・助教・大学院学生を含む研究論文の投稿、発表 ・助教・大学院学生を含む関連学会への成果発表 | | | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・原著論文3編(共著)が学術誌に受理され、国際学会において筆頭者を含め、3演題の発表を行った。 ・科学研究費補助金基盤研究(C)(代表):「島嶼県沖縄の伝統型地域力が介護および介護扶養意識に及ぼす影響」、の外部資金を獲得しており、研究成果発表及び外部資金獲得等、研究領域の目標は達成できたと考える。 | | |
| 社会 貢献 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・学外審査会委員活動 ・学術集会における講演・研修会活動 ・教育機関への教育支援 | | | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・中部広域連合の介護認定審査会委員を務めた。 ・中部広域連合の障害者介護給付認定審査会の委員を務めた。 以上の活動により、社会貢献領域の目標は達成できたと考える | | |
| 管理 運営 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学及び所属部局における委員会活動 ・所属学科等の管理運営活動 | | | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・医学部副学部長を務めた。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|
| 名 前 | | 高原 美鈴 | 所 属 | | 医学部保健学科精神看護学分野 |
| | | | 職 名 | | 助教 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | ・臨床実践を踏まえた授業ならびに実習指導 | | 0.40 | ・授業内容に関しては、これまでの臨床実践経験をふまえ、演習形式の授業を増やし行った。 ・実習指導においては、安心・安全に学習できるよう実習先との連絡調整を行い取り組んだ。 |
| 研究 | 0.40 | ・国内外の関連学会への成果発表 ・学会誌への投稿 ・科学研究費助成事業(H28～31年度) | | 0.40 | ・TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017にて発表を行った。 ・原著論文2編(共著)が学術誌に受理された。 ・科学研究費助成事業で対象者に面接調査を実施し介入研究を行っている。 |
| 社会 貢献 | 0.10 | ・附属病院看護部との看護研究ユニフィケーションへの参画 ・八重山病院との看護研究ユニフィケーションへの参画 ・医療法人かりゆし病院との看護研究ユニフィケーションへの参画 | | 0.10 | ・琉球大学医学部附属病院との看護研究ユニフィケーションにおいて、医療福祉支援センターの看護研究指導を行った。 ・H26～H29年度琉球大学COC事業:「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」(分担)により八重山病院、かりゆし病院の看護研究指導を行った。 ・医療法人フェニックス博愛病院において、看護研究指導を行った。 ・琉球大学公開講座「看護職の研究力アップ講座」参加者の看護職者へ看護研究指導を行った。 |
| 管理 運営 | 0.10 | ・全学的委員会活動 ・入試関連業務における貢献 | | 0.10 | ・全学的委員会活動(1)を務めた。 ・入試関連業務を遂行した。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|----|
| 名 前 | | 福島卓也 | 所 属 | 医学部 保健学科 | 職 名 | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生が理解しやすい授業の工夫 ・学生とのコミュニケーションを重視した授業 ・学部生への研究指導 ・保健学研究科学生に対する専門教育 ・国費外国人留学生に対する専門教育 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健学科だけでなく医学科学生に対して授業を行い、左記の目標を達成した ・4年次卒研6名に対する研究指導を行った。 ・当教室博士後期課程3名、博士前期課程3名に対する研究指導を行うとともに、保健学研究科学生全体に専門教育を行った。 ・当科国費外国人留学生(博士後期課程)に対する研究指導とともに、その他当研究科国費外国人留学生に対する専門教育を行った。 | |
| 研究 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・AMED研究費補助金(塚崎班)による分担研究者としての研究 ・沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業の研究推進 ・論文投稿 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・AMED研究費による医師主導治験の研究事務局を担当した。 ・沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業の研究を推進した。 ・corresponding author論文1報を含め、5報の論文が採択された。 | |
| 社会 貢献 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関への診療支援 ・骨髄移植推進財団調整医師としての活動 ・日本血液学会評議員としての活動 ・日本造血細胞移植学会評議員としての活動 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハートライフ病院、かりゆし病院において診療支援を行った。 ・骨髄移植推進財団調整医師として活動した。 ・日本血液学会評議員として、専門医認定委員会、診療委員会などの委員会活動を行った。 | |
| 管理 運営 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健学科長としての仕事 ・保健学研究科長としての仕事 ・医学部内委員会委員としての活動 ・学科内各委員会委員としての活動 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健学科長、保健学研究科長として運営、研究費獲得のために活動した。特に研究プロジェクト推進経費による事業/研究を推進した。 ・学部内、学科内委員会委員として、医学部、保健学科の安定した運営に貢献した。 | |
| 診療 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・医学部附属病院血液内科外来担当 ・血液内科入院患者カンファランスでのアドバイス | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・医学部附属病院第二内科血液グループの新患外来担当、カンファランスにおけるアドバイザーとして患者診療に貢献した。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|------------------|
| 名 前 | | 尾尻 義彦 | 所 属 | | 医学部 保健学科 |
| | | | 職 名 | | 助教 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットWebclass (ICT)による授業の実施 ・学生実習(生理学・臨床生理学Ⅰ)の効率化と充実を図る ・卒業研究の指導 ・公開講座「市民ランナーのためのランニング講座」の実施 ・公開講座「峠走(岩本塾)」の実施 ・地域連携推進事業「ミニトランポリン運動教室(西原町)」の実施 ・地域連携推進事業「ミニトランポリン運動教室(宜野湾市)」の実施 ・オフィスアワー等における進路指導 | | 0.40 | 目標はすべて達成された。 |
| 研究 | 0.25 | <ul style="list-style-type: none"> ・ミニトランポリン運動の医学・生理学的効果に関する研究 ・高齢市民ランナーの医学、生理学的特徴に関する研究 | | 0.25 | 目標はすべて達成された。 |
| 社会 貢献 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を対象としたランニングクラブの運営と指導 ・沖縄リハビリテーション福祉学院における「生理学」の支援 ・今帰仁村におけるスポーツ振興の支援 ・ミニトランポリンによる健康運動の啓蒙・普及 ・沖縄県マスターズ陸上競技連盟の理事(副会長) | | 0.30 | 目標はすべて達成された。 |
| 管理 運営 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携部門連絡会委員 ・講座連絡会の運営 ・大学入試センター試験監督 ・オープンキャンパスの準備・運営 | | 0.05 | 目標はすべて達成された。 |
| | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|
| 名 前 | | 平井 到 | 所 属 | | 医学部 保健学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.35 | 講義・実習においては、積極的な学習姿勢を涵養できるよう、学生との対話を増やす仕組みを設ける授業展開をすすめる。また、メンタルヘルスの観点から学生生活を注視し、必要があれば当該学生に対し面談を行う。 | | 0.35 | おおむね目標は達成できたと考えられる。講義中に受講学生に対し偏りが無いように質問を投げかけるなど講義で重要な点について考えることを求め、また、学生から質問を受けるように心掛けた。 |
| 研究 | 0.35 | 日本学術振興会の科研費や大学、他の財団等からの研究費の獲得をむけ、学内外の共同研究者と研究計画を作成し申請する。複数の論文投稿及び国内外の学会発表を行う。 | | 0.35 | 日本学術振興会の科学研究費の採択を得たほか、財団等からの研究費に応募した。また、複数の論文投稿を行い、採択となった論文があった。国際学会に1件、国内学会に複数の発表を行った。以上のことから目標は達成できた。 |
| 社会貢献 | 0.15 | e-ASIA共同研究及び科学研究費におけるベトナム人共同研究者及びインドネシア人共同研究者への技術移転を行う。 | | 0.15 | インドネシア及びベトナムの共同研究先に出張し、研究打合せを行う等技術移転への取り組みができた。また、本年度10月より、インドネシアから国費留学生を迎えており、順調に進んでいる。以上のことから目標は達成できた。 |
| 管理運営 | 0.15 | 「遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会」、「研究推進会議」等、学内、学部内委員会への積極的な取り組みを行う。 | | 0.15 | 「遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会」、「研究推進会議」のほか、附属図書館医学部分館長としても、学内、学部内委員会へ積極的な取り組みができたことから、目標は達成できた。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|--|---|--|
| 名 前 | 小林 潤 | | 所 属 | 医学部 保健学科 | |
| 職 名 | 教授 | | | | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.33 | 4年次の指導教官として学部学生の卒業後の進路について相談支援を行う。卒業研究について看護師としての国際保健について早期体験型の学習を進めるとともに卒業研究とリンクさせる。保健福祉政策論、保健関係医療法規には高齢化社会と子供の貧困問題を積極的にとりいれ日本だけでなく世界との比較によって考える教育を取り入れる。大学院教育では、昨年度実施された教室所属以外の学生を考慮した体系化したカリキュラム作成と英語による教育の実施体制を発展させて海外講師の積極的巻き込みを図る。担当の学部学生・大学院生へのメンタルサポートを強化する。教室内学生のスーパービジョン体制をスタッフの管理とともに図る | 0.34 | 指導教官として進路指導をすすめ、卒業予定の全員の進路を確認できた。また1-2年次から国際保健を進路の希望としている学生対象に、国際保健の現場の早期体験の機会を与えることを開始できた。また3年次は5人受け入れ早くから卒業研究を開始できるようにゼミを多く開催した。学部対象講義では、より考える力をつけるように双方向性講義をさらに取り入れた。特別プログラムの評価とスーパーバイズを実施し、内部評価・外部評価システムを確立した。合わせて教室内スーパービジョンを強化した。 | |
| 研究 | 0.30 | 受託研究継続4課題(沖縄県委託事業1課題、国際医療研究開発費3課題)について、研究の推進と研究の公表を図る。分担研究者として担当するAMED-JICAのSATREPS1課題(ラオス)について研究成果創出を図る。構築してきた研究ネットワークを活用し現在実施案件以外の中大規模研究プロジェクトの申請を行う。 | 0.30 | 左記の研究について推進し、5編の研究論文を国際誌に投稿した。また沖縄県委託事業については政策提言をまとめた。学校保健に関しては、WHOの技術諮問会議のレポート、WHO委託による文献レビューの報告と投稿、NCD予防のためフライヤーの作成を支援し政策提言につながった。研究ネットワークをインドネシアに拡大し、アイランドヘルスに関する研究の協力校としてロンボク島にあるマトラム大学と共同研究を開始させることに成功した。新たな採択にいたらなかったが、多数の研究ファンドに申請を継続した。 | |
| 社会貢献 | 0.17 | 国際学校保健コンソーシャム理事長として、シンクタンク機能を拡大しWHOとともに各国への政策還元を継続する。沖縄県感染症拠点形成事業の最終年度として事業への政策提言を研究班としてまとめ、沖縄県や市町村への還元を図る。JICA研修事業を継続し、大学院教育との連携を県内大学との協力に発展させる。NPO法人JAMの代表としての難民支援を継続支援する。 | 0.17 | 研究とリンクして、沖縄県、WHO、東南アジア各国教育省への政策を提言を行った。JICA研修事業を推進し、さらにJICA沖縄との協力関係を強化できた。名桜大学に新設された助産大学院と国際保健に関する連携した教育を開始した。NPO法人の運営、学校保健シンクタンクの運営を継続し、教育とリンクさせた。 | |
| 管理運営 | 0.20 | 留学生の学業・生活支援を学部学生・大学院生と交えて強化し、学生同士のボトムアップの協力が行われる環境づくりを行う。学生や研究員の行う海外研究の実施につきマネジメント体制(共同研究・倫理・安全等)強化継続し、特に緊急体制を連絡だけでなく対応についても強化する。 | 0.19 | 留学生特別プログラムについての評価システムの確立と運営管理強化を行った。また留学生と日本人学生両者に適切な社会環境づくりを行った。海外協力機関との連携により、研究倫理申請を含めて、研究管理システムをさらに強化した。特に学生の派遣についてはきめ細かな対応を行い、安全対策と研究支援体制を強化できた。 | |
| 計 | 1.00 | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 野中 大輔 | 所 属 | 医学部 保健学科 | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.70 | 大学院生に対する授業(Public Health Research等、前期・後期)を担当する。留学生に配慮し、英語で授業を行う。演習(1回/週)や個別指導を通して、大学院生(計15名)の研究能力向上に努める。学部生に対する授業(症候病態論、第3クォーター)を調整する。1年生の指導教員(02組)として、学習・生活指導や早期体験実習の調整等を行う。 | | 0.70 | 大学院生に対する授業(Public Health Research等、前期・後期)を担当した。留学生に配慮し、英語で授業を行った。演習(1回/週)や個別指導を通して、大学院生(計15名)の研究能力向上に努めた。学部生に対する授業(症候病態論、第3クォーター)の調整を行った。1年生の指導教員(02組)として、学習・生活指導や早期体験実習の調整等を行った。 | |
| 研究 | 0.10 | 国際学術誌に3編の論文発表を目指す。国際学会にて3件の発表を行う。獲得した外部資金(科研費)を用いて国際共同研究を継続する。日本国際保健医療学会の代議員として、学会に貢献する。SATREPSプロジェクトの研究協力者として、ラオスパスツール研究所等と共に研究を継続する。 | | 0.10 | 国際学術誌に3編の論文発表を行った。国際学会にて3件の発表を行った。獲得した外部資金(科研費)を用いて国際共同研究を継続した。日本国際保健医療学会の代議員として、学会運営に貢献した。SATREPSプロジェクトの研究協力者として、ラオスパスツール研究所等と共に国際共同研究を継続した。 | |
| 社会貢献 | 0.05 | 本学のJICAプロジェクト(ちゃーがんじゅー学校地域歯科保健プロジェクト)のプロジェクトメンバーの一員として、ラオス国の保健衛生改善を通じた国際貢献を行う。JICAエビデンスに基づく公衆衛生計画立案の講師として、アフリカ・アジア等の保健行政官に対して、研修を提供する。 | | 0.05 | 本学のJICAプロジェクト(ちゃーがんじゅー学校地域歯科保健プロジェクト)のプロジェクトメンバーの一員として、ラオス国の保健衛生改善を通じた国際貢献を行った。JICAエビデンスに基づく公衆衛生計画立案の講師として、アフリカ・アジア等の保健行政官に対して、研修を提供した。 | |
| 管理運営 | 0.15 | グローバル教育支援機構の併任教員として、アドミッション部門に従事する。付属図書館運営委員や付属図書館学術情報基盤資料選定委員会の委員として、学内の管理運営に貢献する。 | | 0.15 | グローバル教育支援機構の併任教員として、アドミッション部門に従事した。付属図書館運営委員や付属図書館学術情報基盤資料選定委員会の委員として、学内の管理運営に貢献した。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 児玉 光也 | 所 属 | | 医学部 保健学科 国際地域保健学教室 | 職 名 | | 特命助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--------------------------------------|---|---------------------------------------|--|------|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.10 | 受託研究業務に関連し、当該教室大学院生の学生支援を行う。 | | 0.20 | 教授の指導の下、沖縄県より受託の感染症研究業務に関連したフィールドワーク等を通じ、当該教室大学院生に対する教育支援を行った。 | | | |
| 研究 | 0.60 | 受託研究業務に関連し、(1)県レベルにおける蚊媒介性動物疾患のリスク評価と地理情報のマッピング、(2)県環境衛生研究所等との連携による沖縄におけるレプトスピラ症啓発、(3)沖縄、タイ、フィリピンにおける蚊媒介性疾患の知識・治療行動に関する調査を行う。 | | 0.50 | 沖縄県より受託している研究業務に関連し、(1)県環境衛生研究所等との連携による沖縄におけるレプトスピラ症啓発、(2)沖縄、フィリピンにおける蚊媒介性疾患の知識・治療行動に関する調査、(3)個人情報保護と人の移動に関する研究を主に行い、また県レベルにおける蚊媒介性動物疾患のリスク評価と地理情報のマッピング等を補佐した。 | | | |
| 社会 貢献 | 0.30 | 受託研究業務における活動を通じ、(1)フィリピン、タイ、韓国等アジア諸国との研究ネットワークを構築・強化、(2)県民の健康啓発・増進(感染症啓発資材作成、研修、調査)、(3)調査研究の結果を学会発表および論文投稿する。 | | 0.30 | 上記研究棟を通じ、(1)フィリピン、タイ、韓国等アジア諸国との研究ネットワークを構築・強化し、フィリピン大学より留学生を1名受け入れ、また客員教授になり、(2)県教育庁及び教育委員会の協力を得、調査を通じて県内中学校教員に対する健康増進を行い、(3)研究結果を学会発表し、論文投稿を行った。 | | | |
| 管理 運営 | 0.00 | | | 0.00 | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|------------------------------------|-------------|--|-------------|--|--|
| 名 前 | 辻野 久美子 | | 所 属 | 医学部 保健学科 | |
| 職 名 | 教授 | | | | |
| 領域 | 業務ウエイト比(予定) | 平成29年度 年度目標設定 | 業務ウエイト比(実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・学生支援 | 0.42 | <ul style="list-style-type: none"> ・学科・研究科の基本理念、看護学教育目標を基盤とし、学部教育においては学生が看護職者に必要な知識・技術を習得し、資質の向上が図れるように教授法を工夫する ・今年度からクォーター制度が導入されたため、長時間学生が授業に集中できるように教授方法を工夫する ・大学院の授業はゼミ形式とし、学生が自主的に小児看護学を学び、理解が深まるようにサポートする ・博士後期課程の学生2名の研究指導、論文作成を指導する ・卒業研究指導および進路指導を行う ・3年次生の指導教員として、その責務を果たす | 0.42 | <p>目標は達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部教育については昨年に引き続き、学生主導のプレゼンテーションや演習を実施し、学生評価も概ね良好であった。 ・クォーター制導入に伴い、第1Qでは実践しながら問題点と対応策を検討した。その反省に基づいて、時間割および授業方法を工夫し、第3・4Qでは混乱のある程度は軽減させることが出来た。 ・大学院ではゼミ形式の授業展開に加え、学生が多角的に母子支援を捉えることが出来るように外部講師による特別講演および学外での講演会への参加を企画した。今年度も学生の希望で、質的研究(M-GTA)に関するゼミを学生主導で展開した。 ・卒業研究指導を5名に行い、文献検索から研究発表まで、一連の研究の流れを教授した。博士論文研究指導を3名に実施した。 ・3年次生の指導教員としての責務を果たし、担当の学生19名は全員無事に進級する予定である。 ・進学、就職の個別相談に応じ、進路指導を行った。 | |
| 研究 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・学会誌への投稿を行う ・国際・国内学会において研究成果を発表する ・定年の最終年度にあたるため、研究のまとめに専念する ・他大学と共同研究を継続実施する | 0.40 | <p>目標は達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和文原著論文1篇が学会誌に掲載された。 ・看護系の著書1冊を分担執筆し、現在印刷中。 ・3つの国内学会で5編、国際学会で1編研究発表を行った。 ・科研費1件が継続採択され(研究代表者)、研究を継続実施した。 ・科研費1件の助成を受けた(研究分担者)。 ・山口大学(継続1件)の教員と、遺伝看護の協同研究を実施中である。 | |
| 社会貢献 | 0.09 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域における関連部署、担当者と連携を図る ・講演等の要請があれば、積極的に応じる ・「沖縄県発達障害児者看護を考える会」の月例会を、継続して企画運営する ・「沖縄県発達障害児親の会・マイワールド」の副会長の責務を果たす ・質的研究の分析手法、修正版グラウンデッドセオリアプローチ(M-GTA)の「沖縄県地方研究会」の活動を継続する | 0.09 | <p>目標は達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「沖縄県発達障害児(者)看護を推進する会」では、今年度初めて大学院学生が主催する「ペアレントトレーニング」に参加協力し、成果を得た。学部学生もボランティア兼オブザーバーとして参加し、自閉スペクトラム症について、理解を深めることができた。 ・「沖縄県自閉症親の会」の副会長(賛助会員)として、会の運営に協力した(資料作成、会議への参加等)。 ・「M-GTA沖縄地方研究会」の代表として、研究会に参加した。現在、講師とワークショップの日程調整中である。 | |
| 管理運営 | 0.09 | <ul style="list-style-type: none"> ・分野長の責務を果たす ・種委員会委員等、任命された委員会における責務を果たす ・後援会事務局の責務を果たす | ・各 | 0.09 | <p>目標は達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属分野長としての責務を果たした。 ・学生支援委員の責務を果たした。 ・保健学科後援会事務局の責任者として、責務を果たした。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|-------------|--|-----|--|---|
| 名 前 | | 大嶺ふじ子 | 所 属 | | 医学部 保健学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務ウエイト比(予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務ウエイト比(実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・学生支援 | 0.40 | 助産学必修科目(周産期学,助産の理論,ウイメンズヘルス,助産管理,助産診断技術学I・II・III,助産実習I・II,助産統合実習計28単位)担当として、助産師コース選択学生4年次4人、3年次5人に対する助産学実践力評価尺度の基準を満たす講義・実習を行う。大学院前期課程1名、後期課程1名の研究指導教員として、地域や施設において研究調査を指導する。学部2年次22名の指導教員として、学部教育の年次履修・進路・生活指導に関わる。 | | 0.40 | 助産学必修科目(周産期学・助産の理論・ウイメンズヘルス・助産管理・助産診断技術学I・II・III・助産実習・助産統合実習計23単位)を担当し、助産学実践力教授活動評価の基準を満たす講義・実習を行った。4年次5名、3年次5名計10名の卒業研究として、調査等を実施、研究指導した。大学院前期課程1名、後期課程1名の単位履修・研究に計画的に関わった。学部学生2年次22名の指導教員として、年次履修・進路・生活指導に関わった。 |
| 研究 | 0.30 | あらゆるライフステージにある女性とその家族に対する研究調査を地域や施設において実施する。平成29年度科研費新規採択されたテーマ「妊娠期の出産準備状態を支援するセルフケア・アセスメント尺度の開発、評価」の調査研究を進める。これまでの調査結果を原著論文(現在、2編の共著英文論文投稿予定)としてまとめ、学会誌採択を目指す。 | | 0.30 | 原著論文:Yoko Tamashiro, Yumiko Endo, Fujiko Omine,. Study of the Midwifery Care in 6 Oobstetrical facilities in Okinawa-Self-Completed Retrospective Qquestionnaires for One Mmonth Postpartum Women, International Journal of Nursing & Clinical Practices 2017, 4: 254-9. Yoko Tamashiro, Shinobu Yamada, Fujiko Omine,.Correlation between the continuation of palliative self-care for Hiesyo during pregnancy and perinatal troubles - A longitudinal study from the second half of pregnancy to intrapartum-琉球医学会投稿中。 29年度科研費採択「妊娠期における心身の出産準備を支援するセルフケア・アセスメントツールの開発と評価」を研究調査準備中。 |
| 社会貢献 | 0.20 | 母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・大学院生とともに県内小中高等学校での出前講座を行う。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たす。日本母性衛生学会評議員・査読委員、日本助産学会評議員としての職責を果たす。 | | 0.20 | 母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育出前講座(20年目)を、教員・学部学生・大学院生とともに県内中学校で行った。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たした。助産師会活動等に関して、県知事表彰受賞。日本母性衛生学会評議員・論文査読委員、日本助産学会評議員としての職責を果たした。 |
| 管理運営 | 0.10 | 保健学科教務委員会副委員長、保健学科入試委員、医学部組織整備検討委員としての職責を果たす。 | | 0.10 | 保健学科副教務委員長として、保健学科教育全般の管理運営に関する職責を果たした。保健学科入試委員会委員、学部組織整備検討委員会委員としての職責を果たした。助産師コース選択学生4年次4人、3年次4人および大学院前期課程・後期課程各1名計2名の指導教員として、オフィスアワーを随時設定、各学生の身体的・精神的健康に留意、単位履修、学習意欲を促進できるような指導を行った。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|------------------------------------|---------------------|--|-----|---------------------|--|
| 名 前 | | 遠藤 由美子 | 所 属 | | 医学部 保健学科 |
| 職 名 | | | | 准教授 | |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.39 | 1.母性看護学、助産学における教育方法の検討 わかりやすい講義、実習内容の工夫 (講義構成、教授方法、資料の工夫) 2.医学部教習科目への参画 (シミュレーション演習) 3.卒業研究における教育法の工夫(演習の運営方法) 4.大学院生(前期、後期課程)への研究指導補佐 (研究計画、倫理審査準備、論文作成の補佐) 5.小児看護学教育への協力(講義分担任) 6.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導の実施 | | 0.40 | 1.母性看護学:クウォーター制に対応するための工夫(アクティブラーニングを意図した ディスカッションおよび知識定着確認のための小テスト導入)を行った。 助産学:学習困難時に学生の心身のサポートと実習施設との調整を行った。 2.シミュレーション演習(医学部教習科目)に関する演習(医学科・保健学科合同 授業)を分担任した。 3.ゼミを定期開講し、文献抄読と並行して研究概論やプレゼンテーション法の 演習を行い、論文作成やプレゼンテーションのポイントについて教授している。 口頭発表、論文指導担当(主3人、補佐2人) 4.大学院前期(グローバル)、後期課程の研究計画、倫理審査準備、調査分析、 論文作成指導の補佐を行った。 5.小児看護学講義を分担任した。 6.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導を実施した。 |
| 研究 | 0.43 | 1.科学研究費による研究の実施(3件) ①基盤C分担任研究:父親の主体的な育児行動を促すパスプランを 活用した看護介入プログラムの開発 継続に関する全国縦断調査 ②基盤C分担任研究:女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活 習慣・食習慣改善プログラムの構築 ③基盤C分担任研究:妊娠期における心身の出産準備を支援する セルフケア・アセスメントツールの開発と評価 2.大学COC事業における調査研究 島嶼医療における看護職の臨床看護研究育成能力 3.他大学教員との共同研究 更年期不定愁訴と生活習慣病の関連(広島県立看護大) 4.研究成果の公表(論文、学会発表)※特に論文公表を重点目標とする 5.平成30年度科学研究費およびその他外部研究資金獲得申請への 取り組み | | 0.46 | 1.①分担任研究者として研究計画実施を補佐した。 ②分担任研究者として研究計画実施を補佐した。 ③分担任研究者として研究計画立案と実施を補佐した。 2.島嶼医療における看護職の臨床看護研究育成能力事業を進行中で、 プログラム評価のための調査(質問紙、面接)を実施中である。 3.共同研究を進行中で、研究成果が論文採択された(共著)。 4.学会発表:国際(共同3) 論文発表:共著(英1、邦4) 投稿中(筆頭 英2、共著 英1)、投稿準備中(筆頭 邦1、共著 英1) 科研、COC事業報告書(2) 看護関連書籍執筆中(分担任執筆) 5.平成29年度科学研究費の採択はならなかった。 平成30年度科学研究費の申請を行った(分担任1件)。 その他外部研究資金獲得申請も、不採択(1件)。 |
| 社会 貢献 | 0.12 | 1.琉球大学附属病院看護部研修企画・運営支援(看護研究) 2.琉球大学医学部附属病院看護部看護研究の個別指導 3.大学COC事業における八重山地域の看護研究支援事業計画、実施 4.大学COC事業に関連した公開講座運営(5回/年) 5.オープンキャンパスの運営 | | 0.10 | 1.附属病院看護部と協働し、研修企画、運営および研修講師を務めた。 2.1部門11課題の看護研究を担当し指導中である。 3.大学COC事業における八重山地域の看護研究支援事業計画、 実施した。 4.看護研究力向上のための公開講座を企画、運営した(5回/年)。 平成30年度も開講に向けて申請中である。 5.オープンキャンパスの運営を行った。 |
| 管理 運営 | 0.06 | 1.ジェンダー協働推進室会議への参画 2.ダイバーシティ推進会議への参画 3.琉球大学博物館(風樹館)運営委員会への参画 4.保健学科FD委員会への参画(FD企画運営) 5.保健学科研究推進委員会への参画 | | 0.04 | 1.ジェンダー協働推進室会議への参画 2.ダイバーシティ推進会議への参画 3.琉球大学博物館(風樹館)運営委員会への参画(今年度開催なし) 4.保健学科FD委員会への参画(FD企画運営) 5.保健学科研究推進委員会への参画(社会貢献1と関連) |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|-----------------|--|-----|--|---|
| 名 前 | | 玉城陽子 | 所 属 | | 医学部 保健学科 |
| 職 名 | | | | 助教 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比(予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比(実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | <p>1.母性看護学(演習1回)、母性看護実践学(演習2回、講義1回)を担当し、シミュレーターを使用したより実践的な教育を実施する。</p> <p>2.助産師国家資格取得のための基礎助産学として、周産期学(4回)、助産の理論(1回)、ウイメンズヘルス(1回)を担当し、視覚的な教材を用いて理解しやすいように工夫する。</p> <p>3.助産診断・技術学Ⅰ(講義1回)、助産診断・技術学Ⅱの科目担当 助産診断について実際の症例検討を加えながら講義する。</p> <p>4.助産診断・技術学Ⅲの科目担当 シミュレーション教育を取り入れて演習を実施する。OSCEによる実習前の技術評価を実施する。</p> <p>5.助産実習Ⅰ 6月より実習調整を開始、7月より継続症例の妊婦健診での外来実習を開始、9月分娩介助の基本的な実習を実施し、コミュニケーション能力や協調性を身につけさせる。</p> <p>6.助産実習Ⅱ 10月・11月分娩期から産褥期までの1連の助産実践力を身につける教育を病棟での実習をとおして実施。長期の実習であることから、学生の健康の自己管理の指導、精神面のフォローもしていく。</p> <p>7.医学科との共修科目であるシミュレーション演習(2回)を担当し、チーム医療の視点を学習させる。</p> <p>8.卒業研究Ⅱの登録学生2名を指導</p> <p>9.大学院生(前期課程)への研究指導補佐(調査・データ分析・論文作成指導補佐)</p> <p>10.卒業生の現在の動向を踏まえて、助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供を実施する。卒業生への大学院進学情報を提供し、社会人入学への進学指導を実施する。</p> | | 0.40 | <p>1~4. 母性看護学領域および助産学領域についての講義・演習は、シミュレーターを使用し、視覚的な教材を用いて理解しやすいように工夫した。今年度よりクォーター制が導入されたため、学生の理解の確認と復習をかねて、小テストを実施した。周産期学については講義を6回受け持った。</p> <p>5.6. 助産実習Ⅰ.助産実習Ⅱ 助産実習施設3カ所との調整をしながら、担当施設の実習を実施した。</p> <p>9月~11月分娩期から産褥期までの一連の助産実践力を身につける教育を病棟での実習をとおして実施した。</p> <p>7.医学科との共修科目であるシミュレーション演習では企画から関わり2回担当した。</p> <p>8.卒業研究Ⅱの登録学生2名を指導し、発表・小論文作成まで実施した。</p> <p>9.大学院生(前期課程)の研究に関する相談を受け、調査紙回収、データ入力・分析について指導した。</p> <p>10.助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供を実施した。卒業生・4年次より進学の相談を受け、情報提供と現状を踏まえてのみとおしについて面談した。</p> |
| 研究 | 0.40 | <p>1.「出生体重と母体の栄養摂取状況」について学会誌へ投稿、学位取得を目指す。</p> <p>2.科学研究費助成(基盤C)による研究の実施:「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」についての研究を継続実施し、中間報告を発表し、論文投稿する。</p> <p>3.科学研究費補助金基盤(C)「妊娠期における心身の出産準備を支援するセルフケア・アセスメントツールの開発と評価」(H29~H31)の研究分担者として、聞き取り調査を実施後質的分析等からセルフケア・アセスメントツールの開発およびパイロットスタディを実施する。</p> | | 0.40 | <p>1.「出生体重と母体の栄養摂取状況」について、再分析し、投稿することができた。原著論文[Study of the Midwifery Care in 6 Obstetrical Facilities in Okinawa-Self-Completed Retrospective Questionnaires for One Month Postpartum Women]が採択された。他共著者として2編採択された。</p> <p>2.科学研究費助成(基盤C)による研究の実施:「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」についての研究を継続実施。分析を終了し、来年度投稿予定。</p> <p>3.科学研究費補助金基盤(C)「妊娠期における心身の出産準備を支援するセルフケア・アセスメントツールの開発と評価」(H29~H31)の研究分担者として、倫理審査へ向けての書類作成の保助および文献レビューを実施した。</p> |
| 社会貢献 | 0.10 | <p>1.沖縄県助産師会の研修への協力</p> <p>2.全国助産師教育協議会の機関会員・個人会員として、他大学と協力しながら助産師教育の質の向上について検討していく。</p> <p>3.SOLA沖縄学園救急救命士養成コースにて分娩助法の講義・演習を5回実施</p> <p>4.沖縄県からの看護協会への委託事業である助産師出向支援導入事業へコーディネーターとして参加する。</p> <p>5.琉球大学医学部保健学科同窓会会計として会の運営に参画する。</p> <p>6.母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当</p> | | 0.15 | <p>1.沖縄県助産師会の研修へ助産学生を積極的に参加させて先輩助産師と交流する機会を設けた。また、会員として運営の補助を実施した。</p> <p>2.全国助産師教育協議会の機関会員・個人会員として、他大学と協力しながら助産師教育の質の向上について検討した。協議会からの学生の到達度調査および助産実践能力を育成する教育方法に関する調査への協力を行った。</p> <p>3.SOLA沖縄学園救急救命士養成コースにて分娩助法の講義・演習を5回実施した。</p> <p>4.沖縄県から看護協会への委託事業である助産師出向支援導入事業へコーディネーターとして参加し、今年度は4カ所の出向支援を担当した。</p> <p>5.琉球大学医学部保健学科同窓会会計として会の運営に参画した。</p> <p>6.母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当し、会長との連絡・事務処理を行った。</p> |
| 管理運営 | 0.10 | <p>1.保健学科FD・学習支援委員会への参画</p> <p>2.看護学教育カリキュラム検討委員会への参画</p> <p>3.オープンキャンパスの助産師教育紹介を担当</p> | | 0.05 | <p>1.今年度は、保健学科FD・学習支援委員会の活動はなかった。</p> <p>2.看護学教育コアカリキュラムについての情報収集を実施した。</p> <p>3.オープンキャンパスにて、助産師教育紹介を担当し、高校生から保健学科に進学し助産コースを目指すとの声も聞かれた。</p> |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |